

＜グループ協議 Aグループ：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を活用した子どもの姿の読み取り＞

- 各園で実践したことを共有し、自分の保育を振り返ることができた。また、日々の保育の中で、幼児期に育てたい10の姿、資質・能力を子どもの姿から読み取り、保育へ取り入れる方法について学んだ。

～助言者御指導（抜粋）～

- 学習指導要領総則にも幼児期の育ちを小学校での学びに生かす・つなげる主旨の内容が記されている。幼稚園の保育内容の中で主体的な学びについて小学校に伝えていくたい。そのためには幼稚園教諭の「保育を語る力」が大切であり、日々の保育について、私たちが専門性を高める必要がある。
- 研修から、「幼児期に育てたい10の姿」と「幼児教育において育みたい資質・能力」が、子どもたちの育つ姿から関係が深いことがよく分かる。保育の中で子どもたちの姿を10の姿の中で考えることが多くなりがちかもしれないが、3つの柱の資質・能力と関連付けて整理することも必要かと考える。
- 幼小連携の第一歩として、まずは「つながる」ことが大切と考える。スムーズに連携できるように、今後も幼稚園から働き掛けていくことが必要である。

＜グループ協議 Bグループ：豊かな表現活動を展開するための知識や技能の向上＞

- 普段、保育で楽しんでいる踊りや手遊びを紹介し合った。教師によってやり方が違うこともあり、気付きや学びがあった。また、クラスの実態（少人数、発達支援）に合った表現活動をするために、教材や活動内容の研究を積み重ねていく大切さを学んだ。



～助言者御指導（抜粋）～

- ごっこ遊びの4つのキーワードは、「なりきる・真似る・憧れる」「つくる楽しみ」「友達と関わる」「一人一人の良さを生かせる」である。教師も一緒に遊びを楽しみながら、子どもの興味や関心から環境を出したり、再構成したりしていくことが大切である。
- 一人一人の表現の仕方は違うため、それぞれの良さに共感したり、取り入れたりしながら、教師も子どもも伸び伸びと楽しく表現をしていってほしい。

＜グループ協議 Cグループ：年齢や発達に合った遊びの進め方＞

- 学年に合った素材の選び方や自然物を使った遊び、集団遊びの始め方から終わり方について話題に取り上げた。戸外・室内問わず、異年齢で遊べる集団遊びについて紹介し合った。子どもの姿や言葉から、クラスの実態に合わせて遊び方やルールを変えて楽しむことの大切さを学んだ。



### ～助言者御指導（抜粋）～

#### 《発達段階に応じた集団遊びについて》

**年少**…基本的な体の動きが身に付いてくる。簡単なルールや繰り返しの動きをする集団遊びを取り入れ、遊びの楽しさやできた喜びを感じることを大切にしていくといい。遊びを通して、順番やルールも覚えていけるようにする。

**年中**…リズミカルに体を動かすことができるようになり、勝敗も楽しめるようになる。少し複雑なルールの遊びを通して、年中児なりに友達と協力することや社会性を学ぶようにしたい。いざこざも多いが、心の育ちのチャンスと捉え、少人数でできる遊びや集団ゲームを多く経験できるといい。

**年長**…俊敏性や平衡感覚が身に付き、感情のコントロールもできるようになってくる。複雑なルールの遊びや、対抗意識をもって友達と協力できる遊びを取り入れるといい。こどもから出た意見を取り入れて遊びを展開していくと、より遊びが深まり、集団遊びを楽しみながら社会性も養うことができる。

- ・集団遊びは、思い切り体を動かすもの、頭を使うものなど様々である。年齢や発達、クラスの人数、場の広さなどを踏まえ、ねらいをおさえて取り入れていく。

#### 《グループ協議 Dグループ：幼児理解と豊かな学びを支える保育の充実》

- ・こどもの実態から幼児理解を深め、教師が願いをもち保育をしていくことが、こどもの成長につながることを確認した。また、ウェブ記録を活用することで、保育の展開やこどもの思い、環境などを可視化することができ、保育の充実につながっていくことを学んだ。



### ～助言者御指導（抜粋）～

- ・ネット社会による人間関係の希薄化、コミュニケーション能力の低下が危惧される社会的背景の中で、ごっこ遊びで『想像力』を育むことが大切である。幼児期に、たくさんのごっこ遊びを経験できるといい。
- ・ごっこ遊びを充実させるための3つの要素として、「役割の見立て」「場の見立て」「モノの見立て」がある。これらの要素が上手く混ざり合うことで、こどもたちの遊びはより豊かになっていく。教師は、こどもたちが楽しんでいるところは何か、つまずいている点はどこかを理解し、その思いの延長線上にある援助を探るとよい。
- ・教師として人生をより豊かに楽しむための秘訣は、「自己開示」「対話」「質疑応答」をしていくことであり、互いに学び合っていくことが大切である。

#### 《グループ協議 Eグループ：発達支援教育の理解》

- ・こどもの困り感を複数の職員で共有する大切さを再確認した。また、保護者への伝え方や共有の仕方について話し合った。こどもの行動の背景を探り、様子を見て適切な支援をしていくことの必要性や具体的な関わり方や効果的な視覚的教材の使い方についても学んだ。

### ～浜松市立幼稚園発達支援アドバイザー 石野 泰子氏 講話「発達支援教育の理解」～

- ・発達支援についての知識、情報、認識などは常にアップデートが求められるため、自身のアンテナを高くしておくことが大切である。
- ・発達は一段抜かしに進むものではないため、しっかりとした土台を築いた上で、その子自身に必要な力を積み上げていく必要がある。
- ・一人一人のウェルビーイングという視点に立ち、その子にとって園生活の質を上げるとはどういうことか、その子の今とこれからにとて、園で何を体験することが最善かを考えることが大切である。



### ～助言者御指導（抜粋）～

- ・発達支援において、対応は早ければ早いほどよいとされている。「気になる」と感じた姿や気付きを見逃さないようにしたい。7月に行われた発達支援研修で配布された大瀧和男先生の資料も参考にしていくとよい。
- ・保護者とのよりよい関係づくりのために、常日頃から積極的にコミュニケーションをとることが大切である。また、気になる姿を伝える際は、こどもを主語として困り感を伝え、外部の教育相談についても、「園が一緒に考えてくれる存在」と感じられるような言葉で勧めていくとよい。

### ＜グループ協議 F グループ：外国人支援について（保護者対応・こどもに対する支援）

- ・保護者対応として、行事を伝えるための教材やイラスト付きの書面など、いろいろな方法を学び合った。文化的な違いは多いが、事前に丁寧に伝えておくことで改善されることも多く、個に合った分かりやすい方法で伝えていくことの大切さを学んだ。

### ～浜松市立金指幼稚園長 佐々木 浩子氏 講話～

- ・保護者との関わりにおいて大切なことは、相手の意図を確かめ、即時の判断を避けた上で行動することである。また、信頼関係構築のために、宗教を含め、相手を尊重し寄り添っていってほしい。言葉については、“浜松市「やさしい日本語」活用の手引き”や“「やさ日チェック」Web公開”を活用するとよい。
- ・園児対応においては、幼児期における言語の獲得が重要である。一人一人の理解に応じたきめ細やかな支援をすることで、日本語の獲得につながる。教師が語幹や語尾を意識して、言葉を発したり口元の動きを見せたりしていくとよい。



### ～助言者御指導（抜粋）～

- ・視覚表示（写真や絵）の活用や短文・平仮名表記での手紙作成など各園で工夫し、教師が保護者にとって強い味方や一番近しい存在となり、寄り添う姿が見られる。
- ・日本語の獲得方法として「やさしい日本語」を活用してほしい。その際、幼児には歳児ごとの発達に応じた声掛けとやさしい日本語をセットにし、保育のレベルを落とさず伝えることが大切である。

### ＜グループ協議 Gグループ：少人数園、複式学級の保育の進め方＞

- ・少人数学級での保育の進め方や行事のもち方、集団での育ちについて協議した。異年齢児・他園児との交流や、地域の方々と積極的に関わりをもちながら集団としての育ちを支えていくことの大切さについて再確認した。また、少人数の強みを探り、保育に活かしていくための手立てや方法を学んだ。

#### ～助言者御指導（抜粋）～

- ・同じ言葉を使っても、人によって捉え方や価値観が異なり、共通理解をもつことが難しい。だからこそ、何でも言い合える関係性や話し合える雰囲気づくりが大切である。また、子どもの人数や職員数の変化に合わせて、柔軟に動ける職員体制を整えていくことが求められる。
- ・地域の人との関わりを通して、人とのつながりを学ぶことができる。地域の力を借りながら、経験の幅を広げていくとよい。
- ・実践した保育活動から課題を見つける力を身に付けると共に、P D C Aサイクルを意識することが大切である。子どものウェルビーイングを高めるためにも資質向上に努め、教師自身が保育を楽しむことが、子どもの意欲や成長につながる。

### ＜グループ協議 Hグループ：園経営が円滑に進むためのマネジメント＞

- ・「園評価」「園の実態・状況」など実践してきたことを話し合った。主任としての役割や園評価の取り組み方、園全体で課題解決を行うためにどう取り組んできたかなど、各園で工夫したことと共有し、すぐに実践可能なマネジメント方法について学んだ。



### ＜グループ協議 Iグループ：保育推進のリーダーとしての助言力の育成＞

- ・それぞれの立場から、保育推進リーダーとして課題に向けて取り組んだことを話し合った。それぞれの課題に向け、具体的に実践方法を話し合うことで、自分の立場に置き換え、有効な方法を探ったり、他園の実践から助言の仕方について学んだりした。

#### ～浜松市立豊岡幼稚園長 鈴木康一氏 講話～

- ・最善の危機管理は、すべきことが確実に行われていることである。
- ・常日頃から、リスクマネジメント（点検、環境整備、マニュアルの共有など）を行い、幼稚園において起こりうる事故や不祥事を防いでいく。
- ・事故が発生した場合には、初動が一番大事である。命を最優先で考え、発生状況を把握し、解決の方向に向かえるようにする。



### ～助言者御指導（抜粋）～

- ・主任として、園運営・園経営を園長と共に進めていく役割がある。園運営をしていく中で、変えられるものは相手（子ども、保護者、教師）の思考や行動であるため、相手を知ること、分析してアセスメントすることが重要である。
- ・主任自身の保育力を高めたり、情報・引き出しを増やしたりして、日々の保育の中で実際に見せていくことで若い職員も自然と学んでいく。